

Unit 2 助動詞を含む構文-2 (英語構文91 P.12-13)

☆☆☆ノートに写し、ア～スについて下線部を埋めなさい☆☆☆

過去を振り返る場面で用いる助動詞の表現 → Next Stage P.34・37 Point 023~024 も参照しよう！

助動詞の後ろに動詞の原形ではなく、ア()+過去分詞 を置く場合は2通りある。

10. 現時点で、過去を振り返って「あのとき～だったかもしれない」のように推量する。
 11. 過去にやってしまったことややらなかったことに対して「あのとき～するべきだったのに」や「～しなければよかったあ」「～しなくてよかったのに」のように今、後悔したり非難したりする。

☞ CHECK! 間違った文(X)を正しく直そう(O)!

ex1) ボールは昨日忙しかったにちがいない(と、今想像する)。

X Paul **must be** busy yesterday.

O Paul **must** イ _____ busy yesterday.

ex2) 君は僕を待たなくてよかったのに(と、今非難する)。

X You **need not waited** for me.

O You **need not** ウ _____ for me.

※文法制約上、過去形を置けない場合は、have+過去分詞を使うのが英語の基本ルールである。to不定詞や動名詞の場合にも応用できるルールである。

ex) He seems to have been sick yesterday. (彼は昨日病気だったらしい)

ex) She is proud of having been a nurse. (彼女は看護師だったことを誇りに思っている)

☞ CHECK! 改めて **Next Stage** を参照し、整理しておこう!

整理7 (1) **エ** _____ have done : …したに違いない

(2) can't [cannot] have done : …した(**オ**)

(3) **カ** _____ [_____] have done : …したかもしれない ※might はやや意味が弱まる

整理8 (1) should have done = ought to have done : …(**キ**)

…(**ク**)

(2) should not [shouldn't] have done : …(**ケ**)

= ought not to have done ※not の位置に注意!

(3) needn't [need not] have done : …(**コ**)

12. **may** を使った慣用表現 → Next Stage P.38・39 Point 026 も参照しよう!

Data Base3000 で学習済みだが、完全に覚えきっておこう!

may [might] サ _____ do (might は表現を弱める)	(どちらかといえば) ~するほうがよい, ~するほうがいだろう ~してもよい(のではないかと思う)
may シ _____ A _____ B	B するくらいなら A するほうがよい (A も B も動詞の原形)
may well do	~するもの(ス _____), おそらく~するだろう